

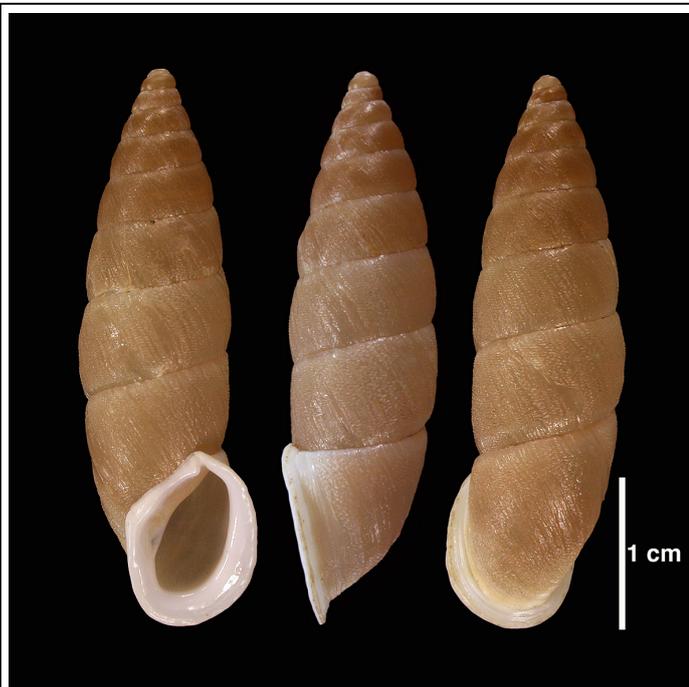
キセルガイモドキ *Mirus reinianus* (Kobelt)

【選定理由】

本種は本州から四国、九州に広く分布するためか、分布域の狭い種が多い陸産貝類においては、あまり注目されない種であり、環境省のレッドデータブックにも掲載されていない。しかし、古くから各地域型(亜種)も知られており、また形態や生態においても地域ごとに差異が認められ、分類学的な再検討が必要な種である。従って、県単位と言うような地域ごとの個体群の保全もないがしろにはできない。本種は、愛知県内では山地を中心に分布するが、生息地は元々少なく(野々部ほか, 1984)、生息域も分断している。また生息地における個体数も概して非常に少なく、かつて多産地として著名であった豊橋市の石灰岩地である石巻山においても、著しい減少傾向が確認されている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長 25–32 mm 程度、殻は細長く、螺塔は高く、螺層数 7–9 層、外見が近似するキセルガイ科貝類とは異なり右巻き。成長脈は弱く、殻表には微細な隆起があり、弱い光沢がある。外唇は肥厚し白色で光沢が強い。若い個体の殻は淡茶褐色で、老成個体では殻皮は脱落し、灰白色になる。県内でも産地によって殻の大きさには変異が認められる。石巻山産個体は概して大型になり殻質も厚く、殻口も厚く肥厚する。



豊橋市石巻山, 1982年9月26日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内の分布域は広いが生息地は少なく、古くから石巻山、嵩山、越戸、鳳来寺山、定光寺などが知られている(野々部ほか, 1984)。また東三河山間部(木村・中根, 1966)から豊橋市にかけて生息が確認されているが、生息地は少なく、生息面積も小さい。平野部での生息は確認されていない。

【世界および国内の分布】

日本固有種。本州、四国、九州に広く分布する。地域により貝殻形態や生態等に差異が認められる。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は山地の自然林内の落ち葉や朽ち木の下、石灰岩地の石の下などに生息する。愛知県産の個体は石灰岩の壁などに付着する事はあるが、樹幹にはほとんど登らない。和歌山県南部、高知県の個体群は、愛知県産と比べると小型で、樹上に高く登ることも多い。卵生であることは知られているが、生活史等についてはほとんど知られていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の生息状況については、【選定理由】の項参照。減少の要因としては、近年の夏季の高温化に伴う森林環境の乾燥化、開発による生息環境の消失などが考えられる。石巻山の個体群は、伊勢湾台風以降他の陸産貝類と共に減少傾向が指摘されているが(野々部ほか, 1984)、2000年代初めと比べても本種の近年の減少傾向が著しい。石巻山における近年の減少傾向についての原因は不明である。

【保全上の留意点】

上述した生息環境の保全が必要である。

【特記事項】

環境省のレッドデータブックには掲載されていないが、福岡県(2014)では絶滅危惧Ⅱ類、その他10以上の都道府県版レッドデータブックに掲載されている。

【引用文献】

福岡県, 2014. 福岡県の希少野生生物, 276pp.
木村昭一・中根吉夫, 1996. 第5章 軟体動物, pp.119–126.in: 稲武町史 - 自然 資料編, 380pp. 稲武町教育委員会, 稲武町.
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23–40.in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325 pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

【関連文献】

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, 343pp. 保育社, 大阪.
財団法人自然環境研究センター(編), 2010. 自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

(木村昭一)